



ウェルビーイングな日々

no 17

■ 保育園に伺う機会があります。園内のいろいろな場所には、保育士さんの思いと工夫が感じられる可愛いマーキングが施されています。思わずじっと見てしまいます。例えば、毎日使う場所として、上履きを入れる下足箱、クレヨンやスケッチブックを置く棚、通園バッグやタオルをかけるハンガーなどには、平仮名で書かれた自分の名前と共に可愛いマークが貼られています。平仮名がまだ読めない子どもでも自分のマークを見つけることで、「ここが自分の場所だ」ということが一目瞭然で分かります。そして、そのうち、マークとともに平仮名で書かれた名前も覚えるようになるでしょう。

■ 子どもの発達はそれぞれのペースがあります。同じ学年でも生まれた月によって、11か月の差がある場合もあります。加えて、個々の特性もあります。こうした違いを理解してそれぞれのペースを見守る姿勢も大切にしたいものです。保育園の各園児のマーキングも、平仮名を見ている子、平仮名とマークを見ている子、マークを見ている子、中には、それらは見ずに「端から〇番目」とカメラで写した画像のように位置関係で覚えている子もいるかもしれません。それぞれが自分なりの手掛かりを頼りにしているのです。

■ 行動を助ける手掛かりは、いずれ必要なくなる日がくるかもしれません。しかし、行動が定着しないうちは大切な役割を果たします。また、手掛かりが不要になることだけを目指すのではなく、形を変えながら使い続けることも大切ではないでしょうか。手掛かりがあることで、子どもたちは安心して行動し自信をつけていけるのです。

■ 『～大きくなったら「一人で」～』という誰もが目指す「自立」した生活も同様です。子どもも、大人も、誰でも、一人でなんでもできるはずはないです。できないことは周りの助けを借りればいい、いずれ、助けてもらう内容や方法は変わったとしても、必要な間は頼ればいいのではないのでしょうか。例えば、メガネやコンタクトレンズの度数を変えながら長く使い続けるように、柔軟に形を変えながら続けていければいいですね。

